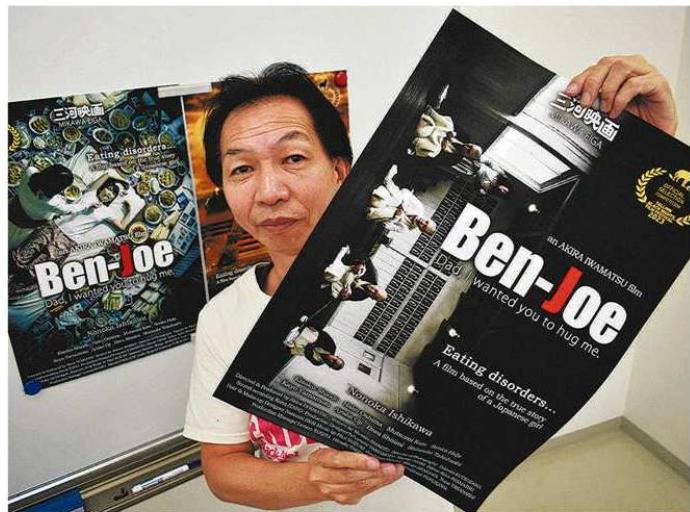


下 「ベンジョー」のポスターを手にする岩松監督
=岡崎市内で

三河映画「ベンジョー」

三河地方を拠点に活動する「三河映画」が手がけた自主制作映画「Ben-Joe（ベンジョー）」（137分）が、北欧エストニアで開かれている国際映画祭「タリン・ブラックナイト映画祭」で、世界で初めて上映される。審査対象となる上位作品にも選ばれており、注目を集めそうだ。（服部壮馬）



撮食障害描く「地方でも世界に通用 証明できた」

撮食障害描く「地方でも世界に通用 証明できた」
タリン・ブラックナイト映画祭は、現地時間で今月3～19日にエストニアの首都タリンで開催。カンヌ、ベルリン、ベネチアと並ぶ世界十五大映画祭のひとつで、審査対象のコンペティション部門には、20作品が選ばれている。ベンジョーは16～18日に上映予定で、18日に表彰式がある。国内

映画好きが集まるアマチュア制作団体で、刈谷市在住の岩松あきら監督（56）らが中心となって2008年に結成された。制作費はゼロから始め、脚本の執筆から撮影や編集、ロケ地の手配やキャスティングまで自分たちで行つ。

キャストもスタッフも全員が手弁当で映画制作に携わり、スタッフは、プロの映画制作者ではない一般企業の会社員や公務員などで構成され、岩松監督自身も結成当時は小学校の教員だった。キャストも有名人ではなく、アマチュア俳優や演技初挑戦の素人が参加している。

撮影は16～17年に、設楽町の旧下津具小学校（18年に解体）や刈谷市の愛知教育大、高浜市の商業施設「Tボート」など、三河地方を中心に県内約30カ所で行われた。約5年間で延べ500人以上が携わった。

岩松監督は「映画づくりが人を成長させる。人のつながりが、結果的にまちづくりにつながっていく」と強調。海外映画祭への出品も果たし、「地方でも、素材でも、世界に通用する映画がつくれることを証明できた」と誇らしげに語った。

北欧の映画祭で初上映

の103の映画祭で受賞や入選を果たした。

2作目となる「ベンジョー」は、撮食障害に悩む女

子大生・早紀が主人公。岩

松監督の教え子の実体験に

基づく物語で、撮食障害や

ダメスティックバイオレン

ス（DV）を中心に現代の

若者を取り巻く社会問題な

どを描いた。

大手制作会社に比べ、予算や技術の制約はあるが、

「人とのつながりと、より良い作品をつくりたいとい

う情熱は負けていない」と岩松監督。延べ千人以上が作品づくりに関わり、10年以上かけて完成した第1作「幸福な結末」は、国内外

構成され、岩松監督自身も結成当時は小学校の教員だった。キャストも有名人ではなく、アマチュア俳優や演技初挑戦の素人が参加している。

撮影は16～17年に、設楽町の旧下津具小学校（18年に解体）や刈谷市の愛知教育大、高浜市の商業施設「Tボート」など、三河地方を中心に県内約30カ所で行われた。約5年間で延べ500人以上が携わった。

岩松監督は「映画づくりが人を成長させる。人のつながりが、結果的にまちづくりにつながっていく」と強調。海外映画祭への出品も果たし、「地方でも、素材でも、世界に通用する映画がつくれることを証明できた」と誇らしげに語った。

タリン・ブラックナイト映画祭は、現地時間で今月3～19日にエストニアの首

都タリンで開催。カンヌ、ベルリン、ベネチアと並ぶ世界十五大映画祭のひとつで、審査対象のコンペティション部門には、20作品が選ばれている。ベンジョーは16～18日に上映予定で、18日に表彰式がある。国内